京都大学

医療技術短期大学部紀要

第12号

1992年

目 次

巻 頭 言
上羽 康夫:現代医療の進むべき道
原 著
内田 宏美, 菅谷 陽子, 五條 基樹: 看護度判定システムの開発 ——客観的で標準的な「看護度別患者選定の基準」改善の試み—— 3
若村 智子,尾関 晴美,中西 恵子,飯田 和代,今西 美恵子,善積 美保, 近田 敬子:慢性疾患患者の行動変容の過程――感知感覚への接近――15
菅沼 美奈子,池田 浩子, 我部山 キョ子 α-index の動向とその要因の検討23
片山 由美,岸下 雅通、横山 文子:看護学生に対する感染防止教育(第1報) ——メチシリン耐性ブドウ球菌の保有率——35
岸下 雅通:院内感染対策への提音:1、臨床微生物学教室創設の必要性41
加茂 映子:アドリエンヌ・リッチの詩――広げよう 私たちの力を――45
投稿規定
編集後記

京大医短部紀要

ISSN 0286-7850

投稿規定(平成元年9月20日改定)

- 投稿:投稿論文は、総説、原著、短報な どとし、本短期大学部教職員(元教職員を含む)が著者、または共著者であるものに限る。
- 論文の受付:原稿(表紙,本文,図,表など) はコピー2部を添え(計3部),当該年度の 6月30日までに,編集委員会に届ける。編集 委員会に届けられた日をもって受付日とする。 編集委員会は,割付けおよび全体としての統 一などをはかるために,著者に対し表現方法 その他の変更,削除などを求めることがある。
- **原稿の書き方**:原稿は、次の規定に従って書かれたものであること。
 - 1. 表紙(原稿第一枚目)の前半には表題, 著者名,所属およびその所在地,ランニング・タイトルをこの順に従って書く。なお 外国語原稿の場合は,上記各項の日本語を 併記する。

後半には原稿の枚数,図,表の数,別刷 希望部数を書く。筆者の所属の表記は,筆 頭者は無記号,共著者の所属が異なる場合 はその著者名の右肩およびその所属名の冒 頭に*,**……印をつける。

- 原稿には,英文の表題,著者名,所属, 抄録(20行,または200words程度)および Key words(8語以内)をつける。著者名の姓は,大文字で表記する。
- 3. 欧文原稿および英文抄録は,必ずダブル・スペースでタイプする。また,当該国人が読んで,正確,明快に理解できるものでなければならない。

和文原稿は原則として、常用漢字、ひらがな、現代かなづかいを用い、B5版の400字詰横書き(論文の内容上とくに必要な場合は縦書き)原稿用紙に清書する。ワープロ使用の場合も、400字詰とする。外国語固有名詞(人名など)は原語を、一般に日本語化された外国語は、片かなを用いる。度量衡は、CGS単位とする。

4. 論文の項目の区分は,原則として下記の 例に従う。

大項目……無記号で下線をつけ、前を一行 あける。原著論文の緒言(Introduction) 材料(Materials)、方法(Methods)、 結果(Results)、考察(Discussion)な どが相当する。

小項目……以下の順で使用する。

- 1., 2. ……行の第1字目に記す。
 - 1), 2) ……行の第2字目に記す。
- 図 (Figure) および表 (Table) には, それぞれ別の通し番号をつける。図版 (Plate) や写真 (原則として白黒) は,図 として取り扱う。

図はなるべく原寸大とし、明瞭でそのまま印刷できるものとする。図版は(14×20cm)以内にまとめる。図は台紙(20×26cm以下)に貼り、さらに薄紙のカバーをつける。カバーには筆頭者名、ランニング・タイトル、図の通し番号を記入する。

図・表の説明文は、まとめて原稿の末尾 につけ、原稿本文中の欄外余白部に、図、 表の挿入位置を朱記し明示する。

- 6. 謝辞は、本文の末尾に入れる。
- 7. 文献は、下記の要領に従い、引用順に配列し、本文の末尾に一括記載する。外国語 文献は必ずタイプする。

本文中の文献引用箇所には著者名や引用 文などの右肩に、その文献番号を¹⁾, ^{1,3,6)}, ²⁻⁵のように記す。

雑誌の場合

著者名(6名以下の場合は全著者名,7名以上の場合は最初の3名を記し,"他"または"et al"をつける),表題,掲載誌名,発行年(西曆),巻数(必要であれば号数),頁数(始一終)の順に記す。雑誌略名は,日本医学誌略年表(日本医学図書館協会編)および Index Medicus に従う。

〈例〉

- Sakaguchi K, Jameson EW: Two new fleas from Japan. J Med Zool 1959;
 10: 156-162
- 2) 菅沼美奈子,内山和美,三井政子:性周期記録表の試み.母性衛生 1978;19:76-82

単行本の場合

著者名(雑誌の場合と同様),表題,編者 名,書名,版数,発行地,発行所,発行年 (西暦),引用頁(始一終)または(1~終 頁)の順に記す。なお著者と編者が同一の場 合には、著者名、書名の順とする。

〈例〉

- Wintrobe MM: Clinical Hematology:
 The erythrocyte. 7th ed. Philadelphia,
 Lea and Febiger, 1974: 80-220
- Spiwarts TW, Tager HS: Biosynthesis of pancreatic polypeptide. In: Bloom SR, Polak JM, eds. Gut Hormones.
 2nd ed. Edinburgh, London, Melbourne, New York: Churchill Livingstone, 1981: 202-205

- 3) 冨田 仁: 救急時検査の手技と解釈, ア ミラーゼ. 冨田 仁, 熊谷直家, 内田耕 太郎編, 検査診断マニュアル, 第1版. 東京: メヂカルフレンド社, 1978: 96-99
- 4) 城戸幡太郎:文化心理学の探求. 東京: 国土社. 1970:1~390
- 5) Pedritti LW: 身体障害の作業療法(小川恵子, 山口昇, 青木真由美訳). 東京: 協同医書出版社, 1985: 103-115
- 原稿の枚数:原著論文,総説は原則として図,表などを含め刷り上り10頁以内,短報などは同じく4頁以内,学会・研究会の抄録などは同じく半頁以下とする。なお,本誌1頁は,400字詰原稿用紙約4枚分に相当する。図は手札大(9×13cm)が原稿用紙約2枚分に相当する。
- 校 正:著者による校正は、再校までとし 校正時における内容の変更や追加は認めない。 印 刷 費:原画の描画を外部に依頼するとき や、カラー写真印刷を希望するときなどは、 その経費は著者の負担とする。
- 別 刷:印刷は50部を単位とし、50部をこえる分の経費は原則として著者の負担とする。

編集後記

いつの世にも、だれであれ、一人一人、心の中では常につぶやき、考え、行なってきたに違いない 自己評価・自己点検が、言葉としてしばしば耳にされる昨今である。だが、自己を見直し、望ましい 自己のありようを把握しえないかぎり、その評価もなしえない。

「紀要」とは「大学・研究所などで刊行する研究論文を収載した定期刊行物」(広辞苑第4版)のことである。また、「紀」には、糸口、すじ道、年代、記録、の意味があり、「要」の中のかなめ、根本、の意とあいまって、「紀要」は本来、「事がらの要点を書きしるしたもの」の意である。現在の私たちと同様に、紀要もまた止むことのない変化の中にあるが、この医療技術短期大学部の学術と文化のかなめであることに変りはない。かなめとしてのありようを今一度、模索・検討しなければならない。

そのような状況にあって、紀要12号では委員会からお願いして、新しく部長に就任された上羽康夫教授に、「現代医療の進む道」と題する巻頭言を頂載した。投稿論文は6編である。ささやかすぎる嫌いがあるが、今後、すぐれた多くの論文が投稿され、栄えと活気をもたらすことを期待したい。

投稿論文の形式が投稿規定にそぐわない点も一部見られるが、著者の専門分野は多方面に分かれているので、必ずしも形式の統一を第一とはしなかった。投稿規定については従来も改定が重ねられてきたが、いまだ、検討を要すると思われる。また、編集委員会は紀要の見直しと改善について、広くご意見やご提案をお待ちしている。

本紀要が、別冊「健康人間学」とともに人間と健康についての問題を提起し、その研究を行なう担 い手として寄与し続けることを願ってやまない。

1992年9月

紀要編集委員長 加 茂 映 子

編集委員 池本正生 我部山 キヨ子

木村信子熊谷俊一

野村 嶬 大塚研一

菅 佐和子 鈴 木 康 三

内 田 耕太郎 山 根 寛 (ABC順)

京都大学医療技術短期大学部紀要 第12号

Annual Reports of the College of Medical Technology, Kyoto University No. 12

平成4年12月10日印刷・発行

印刷共同印刷工業株式会社 京都市右京区西院久田町78

発 行 京都大学医療技術短期大学部 京都市左京区聖護院川原町53

ANNUAL REPORTS

OF

THE COLLEGE OF MEDICAL TECHNOLOGY, KYOTO UNIVERSITY

No. 12

1992

CONTENTS

rorward
Ueba, Y.: Which Way Should the Modern Medicine Be Directed to? 1
Originals
Uchida, H., Sugaya, Y. and Gojo, M.: The Development of a New
Objective and Standardized System in Nursing Criteria
Wakamura, T., Ozeki, H., Nakanishi, K., Iida, K., Imanishi, E.,
Yoshizumi, M. and Chikata, K.: The Process of the Behavior
Modification in Chronically Ill Patients: The Approach to the Cognitive
Senses
Suganuma, M., Ikeda, H. and Kabeyama, K.: Change of α-index and Its Causes 23
Katayama, Y., Kishishita, M. and Yokoyama, F.: Infection Control
Training for Nursing Students: 1. The Incidence of Methicillin
Resistant Staphylococci
Kishishita, M.: A Suggestion as to Nosocomial Infection:
1. Department of Clinical Microbiology
Kamo, E.: A Study on Adrienne Rich's Poems: Let's Join and
Stitch Our Power Together
Instructions to Authors

Ann. Rep.
Col. Med. Tech.,
Kyoto Univ.

Editorial Notes

ISSN 0286-7850